

宮古の風

～ 新しい風は東から ～



地域のよさを生かした地域学校協働活動が積極的に行われており、子ども達に様々な力が育まれています。また、地域の方々が学校に関わることで、地域全体の教育力が高まったり、地域の魅力を再発見できたりする機会となります。
文責：村上 稔

宮古地区「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム

9月2日(火)、宮古市民文化会館において、令和7年度宮古地区「地域とともにある学校づくり」推進フォーラムを開催しました。全国コミュニティ・スクール連絡協議会顧問の貝ノ瀬滋氏を講師に迎え、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の本質について、熟議の有用性や東京都三鷹市の事例についてご紹介いただきました。

ワークショップでは、「模擬学校運営協議会」と題して、NPO法人みやっこベース 理事長・早川輝氏が進行役を務めました。学区ごとにグループを編成し、対話をとおして、今後のコミュニティ・スクール推進に向けた、次の一手を考える時間となりました。以下に、参加者の感想の一部を紹介いたします。



模擬学校運営協議会では、どの参加者も主体的に交流され、学びを深めていただきました。

- ・コミュニティ・スクールの在り方について、改めて考えさせられる機会となった。現状は、報告がメインの場となっているが、十分な熟議ができるようにリーダーシップを発揮していきたい。
- ・形骸化しつつあるタイミングで見つめ直すことができた。関係の質から、思考、行動、結果の質へという流れは、学校運営にも関わる学びにもなった。
- ・働き方改革について、「学校の業務3分類」と照らし合わせながら熟議を行うというのは、非常に価値が高いと感じました。具体策を交えながらコミュニティ・スクールの意義や今後の方向性について、分かりやすく教えていただき、ありがたく思いました。
- ・熟議を進めるうえでどのような点を大切にしていけばいいか、心理的な安全性を保ちつつ、楽しく話し合いながら考えることができました。本校ではまだ熟議に至るまで話し合いが進められていないので、テーマを含めて、どのように進めていくか検討していきたいと思いました。

～訪問支援 活用のすすめ～

宮古教育事務所では、「地域と学校の連携に関する訪問支援」を行っております。職員会議や学校行事、PTA懇談会等でも活用でき、地域と学校の連携に関する課題解決につながる支援をいたします。要請に応じて、オーダーメイドで対応できます。以下に活用例を紹介いたしますので、積極的にご活用ください。

PTA 役員会 (PTA や地域住民を集めた会議等)

地域学校協働活動の考え方、地域の方々の参画の在り方について説明いたします。

CS ポートフォリオに関する情報提供

本研修会でもご紹介したCSポートフォリオの概要の説明や、実施方法や分析まで支援いたします。

「地域と学校の連携」について学ぶ校内研修

地域人材の活用の仕方、地域学校協働活動の一体的な推進について説明いたします。

学校運営協議会を開催前の打ち合わせ

熟議のテーマ設定、他地区の学校運営協議会等について情報提供をいたします。

いわての復興教育研修会

8月27日(水)、宮古地区合同庁舎において、令和7年度「いわての復興教育研修会」を開催しました。岩泉町立小本小学校、宮古市立崎山中学校の実践発表や、岩手県教育委員会佐々木宏幸課長による講義、研修者による協議を通して、各校の復興教育の一層の推進につながる研修会となりました。以下、研修者の感想を紹介します。

○ 実践発表「いわての復興教育推進事業を活用した復興教育の実践」について

- ・地域資源を活かす、郷土に誇りを持てるようにするということが復興教育につながるということを改めて感じました。子どもたちと共に地域を知ること、地域の資源や人材を活用することを大切にしていきたい。
- ・2つの学校では、地域で学んだことを地域に「発信する」「返す」というところがあり、学んで終わりではないということを活かしていきたい。



- ・中学生は自分ができることとして支える側になってみることに、小学生は中学生への憧れを抱きながら自分たちのなるべき姿を見て学ぶことができ、小中連携が効果的に為されていると思います。中学校単独でも学年によって、目指す姿を高めていく計画が立てられ、生徒と共有をしっかりとできれば、マンネリにならずに活動が活きていくと分かった。

- ・「いわての復興教育」の3つの教育的価値を育てていくために、組織的・系統的に計画実践されていると感じました。
- ・復興教育というと、防災ばかりに目を向けてしまうが、郷土愛、夢や希望の育成のために様々な取り組みを行うことも復興教育となるということを知ることができた。新たなことを始めるよりも、今やっていることに復興的な要素やねらいを持たせ、実践していこうと思う。

○ 講義「いわての復興教育の一層の推進に向けて」について

- ・「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値や具体的な21項目をバランスよく取り入れる重要性を改めて感じた。自校の復興教育計画にも教科横断的にどの活動がどの価値と結びついているか示されている。これを教師側が把握し、意識して指導にあたる必要がある。
- ・岩手に生きるものとして、津波のことを知ることや伝えることは大切なことだと思いました。子供たちがこの先、いざという時、自分や他人の命を守るための正しい判断ができるよう、災害全般の防災意識を高めることは大前提として、津波のことも含めてしっかり復興・防災教育を行っていきたい。
- ・学校の教育活動全体で取り組むこと、新しい活動をしかけるのではなく日常の教育活動を復興教育の視点で捉えなおすことが必要であると感じた。

○ 協議「各校の復興教育の一層の推進に向けて」について

- ・先生方と共通理解を図りながら、復興教育を推進していきたいと思いました。日々の教育活動からも復興教育を推進できます。子どもたちの郷土を愛する心の育成や自他の命の尊重、様々な人とのつながり、日々の備えや自分の命を守ること等、年間指導計画を活用して推進していきたい。
- ・計画作成はしていても実施後の評価・改善に生かされていない実情、学年任せ、教科任せにしている点が協議した3校で共通していた。まずは、職員会議などで今月の教科による復興教育の項目を示す、どのような実践が行われたか簡単に記述してもらうシートを作成し共有するなど、意識化を図り蓄積したい。



いわての復興教育が目指すのは、「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材育成」です。ぜひ、研修会での学びを実践に落とし込み、各学校の教育活動を通して、3つの教育的価値（いきる・かかわる・そなえる）を育てる教育活動の推進を引き続きお願いします。